

< 実践事例 練馬区立石神井西中学校 >

1. 取組・活動名

- ① 「服のチカラプロジェクト」(ボランティアマインド)
- ② 「和菓子作りと菊の栽培」(日本人としての自覚と誇り)

2. 取組・活動のねらい

- ① 活動母体の民間企業社員の出前授業を通して国際問題に目を向けさせ、一人一人が出来ることを考えさせる。
 - ・子供服の回収活動を通して、社会貢献の精神を育む。
- ② 日本の文化である和菓子作りを体験することで日本の食文化に目を向けさせる。
 - ・JET 青年とともに和菓子作りを体験することで、日本の文化を外国人へ発信する力を培う。

3. 教育課程上の教科名・時数

- ① 「特別活動(委員会活動)・1時間」
- ② 「技術・6時間」「総合的な学習の時間・1時間」

4. 実施上の工夫

- ① JRC 委員会生徒を対象に活動母体の民間企業社員による出前授業を実施し、服にはどのようなチカラがあるのか、回収した服はどのように役立てられるのか学習した。
 - ・出前授業で学んだことをもとにポスター・チラシを作り各家庭に配布した。服の回収ボックスは、目立つようなデザインにし、生徒が楽しんで参加できるようにした。
- ② 開校70周年式典に合わせて菊の栽培を行い、式典当日に生徒が作った花鉢で校内を装飾した。
 - ・和菓子職人をゲストティーチャーとして招へいし、生徒が育てた大菊をモチーフとした和菓子作り体験を行った。

5. 本取組・活動の内容



「服のチカラプロジェクト 民間企業社員による出前授業」

- ・JRC 委員会では、民間企業が社会貢献活動として行っている『“届けよう、服のチカラ”プロジェクト』に参加した。これはいらなくなった子供服を回収し、企業を通じて難民キャンプなど子供服を必要としているところに贈る活動である。
- ・この活動のスタートにあたり、放課後に JRC 委員と有志生徒が集まり、来校した講師の方から「難民問題」と「服のチカラ」について特別授業を受けた。
- ・この取組は、スクールアクション「もったいない」大作戦の取り組みの一つとして行った。



「服のチカラプロジェクト 回収活動の様子」

- ・いらなくなった子供服を、難民キャンプで暮らす世界の子供たちに贈るため、平成 29 年 10 月 2 日(月)～31 日(火)の期間に JRC 委員会を中心に回収活動を行った。
- ・2カ所ある生徒の昇降口に段ボール箱を設置した。JRC 委員会とボランティアの生徒で、回収した服を仕分けしてダンボールに詰めるところ、大きなダンボール箱4箱がいっぱいになった。
- ・後日、企業の方が難民キャンプで服を配る様子や、その服を着て喜ぶ子供や親たちの様子を写した写真を全校朝礼でスクリーンを使って紹介した。



「和菓子作りと菊の栽培」

- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本の伝統文化を海外に発信できる生徒の育成する事業のひとつとして、1年生の授業で和菓子作り体験を行った。
- ・和菓子は自然の美しさや季節の移ろいを表現し愉しむもので、年中行事、人生の節目、家族や地域との密接な関わりの中で食されることを生徒は理解した。
- ・実習では演示を行う先生の手順・動作をよく観察して自分の作品を創作した。今回作った練りきり製の「玉菊」は、1年生が11月に行われた70周年記念式典に向けて栽培した菊をイメージしている。



6. 成果

- ・生徒のボランティアマインドの醸成に向けて立ち上げた JRC (青少年赤十字) 委員会を中心に、国際社会への貢献やボランティア活動に関する掲示や発表を通して、全校生徒に周知した。また、外部講師を招へいした授業や、首相官邸・JICA 施設訪問などを通し、多くの生徒が奉仕や社会貢献について関心をもつようになった。
- ・JRC 委員会を中心として、生徒の手によるボランティア活動の推進を日常的に行ったことで、全校の生徒が自分ができる社会貢献について考え、自主的に募金や支援活動に協力するようになった。
- ・日本の秋を象徴する花である菊の栽培を通して植物を慈しむ心が育っていった。夏の間、欠かさず水を遣り、70周年記念式典に合わせて大きな花を咲かせることができた。
- ・日本の伝統文化の良さ理解し、外国人に発信する力の育成事業の一貫として、切り絵、茶道、着付け、落語鑑賞、和菓子作り、弓道などに取り組んだ。また、ALT や JET 青年とともに授業を受け、英語を使って日本の文化を話題に交流する体験を積むこともできた。